

絵

PAINTING
MAJOR

絵画専攻領域 専攻案内

画



TOKYO ZOKEI UNIVERSITY

一人ひとりの個性を尊重した 表現世界を確立する

「表現を通して伝えたいことは何？」

「なぜその対象を描くのか？」

「この表現方法を用いる理由は？」

自身と正面から対峙し、

美術を取り巻く様々な価値観の中で、

自問自答を繰り返しながら、

ひとつの作品を完成させていく絵画の世界。

絵画専攻領域では、

事物の形象や現実の事象と深い関連を持つ絵面や、

作品を構成する思想などの概念的要素、色彩や形態、

素材などの物質的要素の出会いと展開等、

絵画の未知なる発展の可能性を追求します。

また、版による間接表現の広がりを経験し

絵画表現の展開を試み、多様に展開する美術表現を

広い領域（絵画、空間、立体、身体、音、ことばなど）の

関わり合いの中でとらえ、制作研究の指針としています。

こうした考えを基軸に、

美術表現の新たな広がりを探求していきます。



絵画専攻では2003年の教育課程以来、
絵画表現の領域を4つの研究指標に分けて
教育研究を進めてきました。

2018年度からの新教育課程では、
形象・概念・版・広域の名称は、
大きく「絵画」として括られ、
これまでの各領域を軸としながらも
多様性や関係性を反映させた
領域の再構成を目指していきます。

4年間の学習の流れ

1 〔1年次〕 絵画表現の基礎を学ぶ

様々な「見ること、描くこと」を経験し、自分が描くことは何かを探る「絵画基礎実習 A」。自分の表現の視野を大きく広げ、客観的に制作を捉え直してみる「絵画基礎実習 B」。また「美術演習 A,B」では、古典から現代まで多様な表現のあり方について学び、様々な知識と技術、描法を身に付け、各自の表現の可能性を広げていきます。



2 〔2年次〕 各自の表現の幅を広げる

多様な表現を経験し、制作を通して自己の資質を探る「美術演習 C」、「絵画制作 I」は、4つのクラスの中から各自の表現に適した内容を選択し、制作を進めながら検証と考察を繰り返し、自らの表現の方向性を絞り込んでいきます。後期の「絵画制作 II、III」では、「絵画制作 I」で選択したクラスのカリキュラムに沿って制作し、各自の表現を探ります。



3 〔3年次〕 自己の表現を深める

「絵画制作 IV,V」では実習制作を通して自己の表現と向き合い、各自の作品制作の方向性を構築し専門性を深めながら、広く社会に発信していく表現者としての自覚を育みます。また、作家、批評家、研究者など、学外から人材を招いた特別プログラムや学内外でのギャラリー展示なども活発に実施し、広い視野の獲得を目指します。



4 〔4年次〕 4年間の研究成果の集大成

各自の表現の内容や方向性に最も適した教員の一人を、卒業制作の指導教員として選択。各自の制作テーマを基に、マンツーマンの指導で、4年間の研究制作の集大成を目指し作品制作を進めます。また、学生合同の講評会などを通して各自の表現の達成度を検証し、今日における表現者としての姿勢を探求していきます。



4つのクラスの指針

〔絵画a〕形・リアリズム

絵画表現を軸とし、時代や社会に対する思考や感覚、感情などから想起するイメージを具象化し、具体性のある表現を模索する。学生自身が、主体性を持って選んだモチーフへの考察や、これまで形成された価値観への考察、関心のある社会的出来事、またそれに対する問題提起などを「形」に置き換え自身の感じる「リアル」について追求します。対象（事物や事象）をしっかりと観察する事で、学生自身のテーマや構想などの本質を見極める力を養う事が出来、それを基に制作をしていきます。



〔絵画b〕テーマと表現形式

絵画表現を軸とし、学生自身のテーマと形式の関係性から表現を模索する。今日の絵画表現について、学生自身の主題・表現形式の変遷などの概念的要素と色彩・形態・マテリアル等の物質的要素がどの様な関わり合いをもって絵画を生成しているかを学びます。これらを踏まえて、学生各自は自分のテーマに沿って、アイデンティティに立脚した自己表現を目指し、今日の表現における「絵画性」の意味について考察し、それに基づき制作します。



〔絵画c〕版

絵画における間接表現や複製技術の関係を、研究し実践する場を「版」とします。この「版」には2つの方向性があります。版画の歴史的な意味と技法を習得し、版画特有の表現を深化させていく方向性。「版」の概念と手法を広く学び、様々な可能性を追求し表現の拡張を目指す方向性。2つの方向性の間を螺旋的に往き来しながら、古典から現代・実社会につながる美術表現を視野に入れ、自身の「版」を用いた表現を探求していきます。



〔絵画d〕超域表現

自己の内部から湧き上がる根源的イメージをダイレクトに受け取り、そのイメージを、既成の手法に固定せず、平面や立体、空間表現や身体表現、音、言語、映像など、様々な表現メディアと関わらせる。その上で、表現としての固有性を尊重しながらも、そこで生み出される横断的で実験的なプロセスそのものを、作品の成り立ちの中核とし、既成の表現メディアへの固定的な枠取りや考えを超え、高度に複合、混合された「超域表現」を構築します。

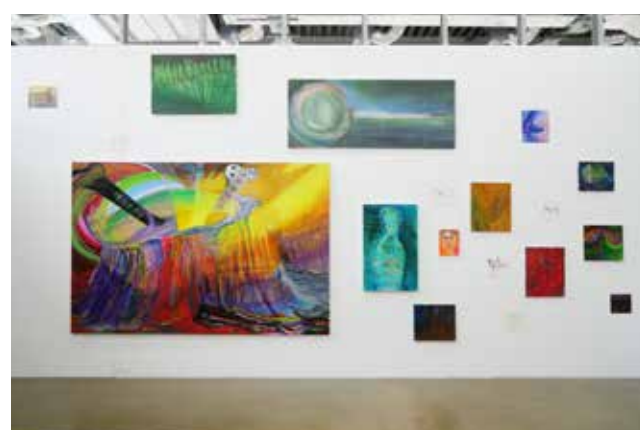


学生たちの作品

[2019年度 ZOKEI展より]



原口友佳



長嶺高文



辻響己



時山桜



長谷川奈穂



近藤沙耶



小川紗奈



杉測飛研



益子結衣



飯塚里美



新海帆南



宇野慧子

絵画基礎実習A・B 1年生



美術演習A(テンペラ) 1年生



美術演習B(日本画) 1年生



美術演習C(アーティストブック) 2年生



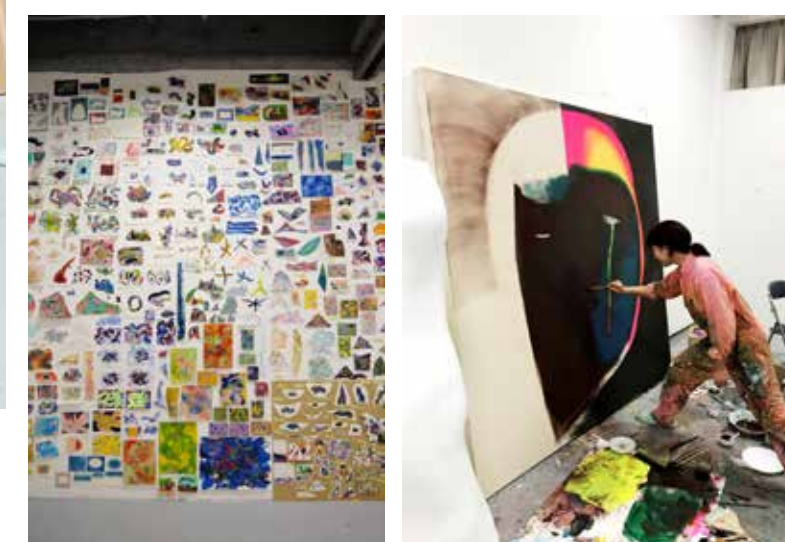
絵画制作II・III 2年生



美術演習C(立体表現) 2年生



絵画制作IV・V 3年生



絵画研究II 4年生



年間カレンダー

4月 入学式

5月

6月 ZOKEI FIRST CONTACT

7月 オープンキャンパス

8月 ZOKEIワークショップ

9月

10月 CS祭(芸術祭)

11月

12月

1月 ZOKEI展(卒業研究・卒業制作展)

2月 東京五美術大学連合卒業・修了制作展

3月 学位授与式



ZOKEIワークショップ。
こどもたちと
全身で描くの、楽しい!

CS祭、遊びにきてね～
毎年張り切って準備します!

造形のいいところ、
教えてください。



2年生Iくん

色々な表現方法が体験できるので、
やりたい事の幅が広がった!



2年生Kくん

少人数なので先生と
多く接する機会も多く、
作品についての相談がしやすい。



2年生Tさん

ハイブリット科目で基礎的な事も学べ、
他専攻の学生と同じ授業なので
表現の幅や意見が聞ける。



1年生Tさん

遅くまでアトリエが使えて楽しい!



学生生活最後の
大イベント、五美展。
新美術館って広いなあ



東京造形大学の 展示空間 ギャラリー 美術館



mime(マイム)

mimeは、東京造形大生絵画専攻の学生有志が「学生の
ための展示スペースを作りたい」という想いから、自ら建
設した自主運営スペースです。企画として他専攻や卒業生
の方の展示、他のオルタナティブスペースとの接触等、学
内外の交流を目指しています。



ZOKEIギャラリー

ZOKEIギャラリーは、大学企画展、本学大学院生の研究
成果発表、本学教員の企画展等、本学の教育・研究活動を
目的とした利用に供するスペースとして2005年に大学院
棟1階に完成しました。本学の造形教育の特色を発信す
る場として、また学生が制作・研究の成果を発表する重要
な空間として運営されています。



CSギャラリー

CSギャラリーは、大学企画展、ゼミ展、本学教員の企画
展等、本学の教育・研究活動を目的とした利用に供するス
ペースとして2010年に10号館1階に完成しました。本
学の造形教育の特色を発信する場として、また学生が制
作・研究の成果を発表する重要な空間として運営されてい
ます。

東京造形大学附属美術館
(横山記念マンズー美術館)

本美術館は、1986年八王子の医師故横山達雄氏より寄贈
されたジャコモ・マンズーの作品(彫刻5点、版画23点)
から出発いたしました。建築は白井晟一氏の設計原案に基
づいています。



CS-LAB

CS-LAB(学生自主創造センター)は、学生たちが自ら学
ぶ事を捉え直し、実践するためのスペースです。「わがま
まなび」を合い言葉に学生が中心となり、他には無い
授業を行い、シンポジウムやワークショップ、作品展示や
パフォーマンスなど、領域を超え自由な発想で活動し、自
分たちの望む教育を大学に提案する場となっています。

学外での制作活動



社会連携活動について

本学の教育・研究は「造形」を基礎としています。

この「造形」という言葉には、デザイン・美術を広く社会の営みの中でとらえる思想が込められており、本学が学外の団体と行う研究事業は本学の「造形」活動において重要な位置を占めています。

また、大学は社会における公益的な団体として、社会にその知的資源を積極的に還元することが求められています。本学は、社会に開かれた大学として、産業界・教育機関・行政機関との多角的な連携による社会の進展に貢献することを目指します。



レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年記念 「東京造形大学 夢の実現展」(仮題)

彼が手掛けたさまざまな分野における試みは、本学の複数の専攻における学びへの系譜上にあります。実現しなかった(あるいは未完成や失われた)彼の試みを今の技術で蘇らせることは、この500年間の各分野での歴史をみるうえで意義深いことであり、また学生にとっても貴重な学習機会になるでしょう。また注目度の高い題材を扱うことで、本学の学びの水準と多様性を広く認知させることにもつながることが期待できます。



八王子医療刑務所壁画制作プロジェクト

本プロジェクトは、八王子市市制100周年を記念して開催された「第34回全国都市緑化はちおうじフェア」の一環として企画されました。

フェアの実行委員会から委託を受け、「八王子市に住む地域の人々が壁画制作への参加を通して、本学と協働して地域アートを共創する」という基本コンセプトのもと、本学社会連携活動の一環として八王子医療刑務所の高さ4メートル、幅140メートルの巨大壁画の制作を行いました。絵画専攻の学生を中心に描かれた壁画は、八王子の歴史をたどる「巨大絵巻」となっています。



Creative Spiral Project (CSP)

CSPは、東京造形大学美術学科教員が主体となり、東京造形大学卒業の美術家の発表支援と活動記録の蓄積をとおして、新たな芸術表現の育成と社会の還元を行う事を目的としたプロジェクトです。



卒業生インタビュー

たくさんの人に迷惑をかけながらも
学んだものは大きい。

Daisuke Takahashi
高橋大輔 [作家] 2005年卒業



入学のきっかけは何ですか（専攻領域を選んだ理由・志望動機等）

私が受験したのは90年代後半でしたが造形大はアトリエが広く自由な校風だと評判がよかった。即入試を志願しました。

在学中に主に何を学び、どのような技術が身につきましたか

絵画の四角の中のことから、外のこと。物質のあつかいや精神論、様々なアーティストから人生観を学んだ気がします。

そして美術の外側の話、先輩方の苦労話や人と人の付き合い、自分自身の若い故の失敗などたくさんの人に迷惑をかけながらも学んだものは大きいと思います。

在学中に得た制作上の「気づき」などがあれば併せて教えてください

大学1年の冬に野外で絵の具まみれで転げまわるというパフォーマンスをしました。そのときの痕跡が絵画のフレームを気にしていたことに気づきました。この経験があったことで「自分は絵画を描きたいのだ」と確信を持ち、直後に150号の大作を3枚仕上げました。濃密な時間でした。

卒業後の進路はどのように決めましたか

もちろん作家になることしか考えておらず、やりたいことをどう続けられるか、手探りでした。卒業後7年間はアルバイトでなんとかやっていました。とにかく大変な時期でしたが、ここであめ込んだ人生経験は尊いものだと思っています。

現在の活動について教えてください

3年前に埼玉県小川町に引っ越しました。子育ての手伝いをしながら、絵画教室の講師をし、そして制作して暮らしています。

今後の活動の展望を教えてください

いまはアトリエにこもる時期だと考えます。納得がいくまでこつこつ制作をします。時間がモノを言います。



たかはし だいすけ
1980年 埼玉県生まれ

〔近年の主な個展〕
2015「ア」HARMAS GALLERY(東京)

〔近年の主なグループ展〕
2016「NEW VISION SAITAMA5 迫り出す身体」埼玉県立近代美術館(埼玉)
2015「ペインティングの現在 -4人の平面作品から-」川崎市立美術館(埼玉)
2014「絵画の在りか」東京オペラシティアートギャラリー(東京)

自分のやりたいことに
何にでも挑戦できる最高の環境。

Masanori Numaguchi
沼口 雅徳 [株式会社 Flying Ship Studio代表] 2003年卒業



卒業後 CG アニメーションの業界に入り、紆余曲折を経て、現在は会社を立ち上げ、主に子供向けのアニメーション作品の監督・演出の仕事をしています。

学生時代には絵も描きましたが、途中から人形アニメーションばかり作っていました。

絵画専攻でしたが、アニメーションの作品を講評に出しても許される校風に感謝しかありません。

自分のやりたいことに何にでも挑戦できる最高の環境でした。

様々な専攻の友人と過ごした経験が、
今も息づいている。

Taichiro Takamatsu
高松太一郎 [作家] 2009年卒業



ChristianDiorというParisに拠点をおくメゾンで、クチュリエという服を仕立てる仕事に就いています。1着のドレスやジャケットが仕立てられるまでに糸を紡ぐ人、染める人織る人、刺繍やブリーツを施す人、形を作る人など様々な「手」が介入しています。世界各地からクリエイティブのスペシャリストが集結して、ひとつの世界観を創造していく円の中に自分がある事の喜びは、他には代え難いものです。その精神は造形大学在学時に、様々な専攻の友人達と過ごしたファッションショーや映像作品を創る過程で経験し、培いました。

画家、現代美術作家、映像作家、教員、学芸員、ギャラリスト、造形屋、モデル、絵本作家、
フラワーアレンジメント作家、グラフィックデザイナー、ゲームクリエイター、ジュエリーデザイナー、農家、
漁師、造園家、アニメーション作家、ファッションデザイナー、不動産屋、漫画家など ほか

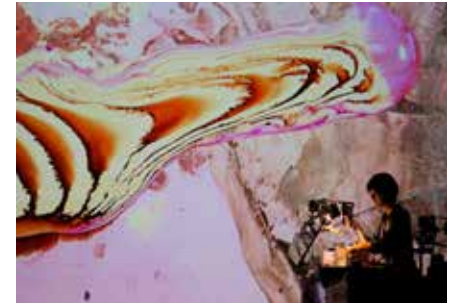
〔2020年度絵画専攻領域スタッフ一覧〕

客員教授	専任教員	特任教員	非常勤教員					助手
田中功起	生嶋順理	小林良一	大槻英世	近藤恵介	高橋淑人	藤井浩一朗	山本竜基	櫻井想
吉田亜世美	木下恵介	佐竹宏樹	数見亮平	齋藤悠紀	常田泰由	星晃	吉浜岳史	時山桜
	近藤昌美		片山真妃	作田富幸	戸田祥子	藤田道子		長嶺高文
	清水哲朗		鹿野廣一郎	庄司朝美	西島直紀	細迫諭		古木宏美
名誉教授	末永史尚		木村彩子	白井美穂	西平幸太	堀由樹子		
原健	豊嶋康子		木村友香	祐成政徳	長谷川健司	松永悠一郎		
母袋俊也	宮崎勇次郎		清原亮	高橋大輔	原田郁	村林基		

詳しくは、本学HPをご覧ください
www.zokei.ac.jp/academics/faculty/

種を蒔き、育てることを学ぶ
学生時代でした。

Akiko Nakayama
中山晃子 [画家] 2012年卒業



技法にとらわれず、自由にじっくりと自分の興味関心に取り組みたかったので、なんでもできる絵画専攻に入学しました。映像、写真、立体、版画、様々な技法に触れ、時に他専攻の友人と実験をしながら、研究に没頭する6年間でした。今もやはり、あらゆるメディアを扱いながら絵を描き、異なる文化を学び、交流し、また絵を描く生活をしています。ふと、制作は農作業のように、という教授の一言を思い出します。種を蒔き、育てることを学ぶ学生時代でした。

留学や、専攻外の
授業も受けた貪欲な日々。

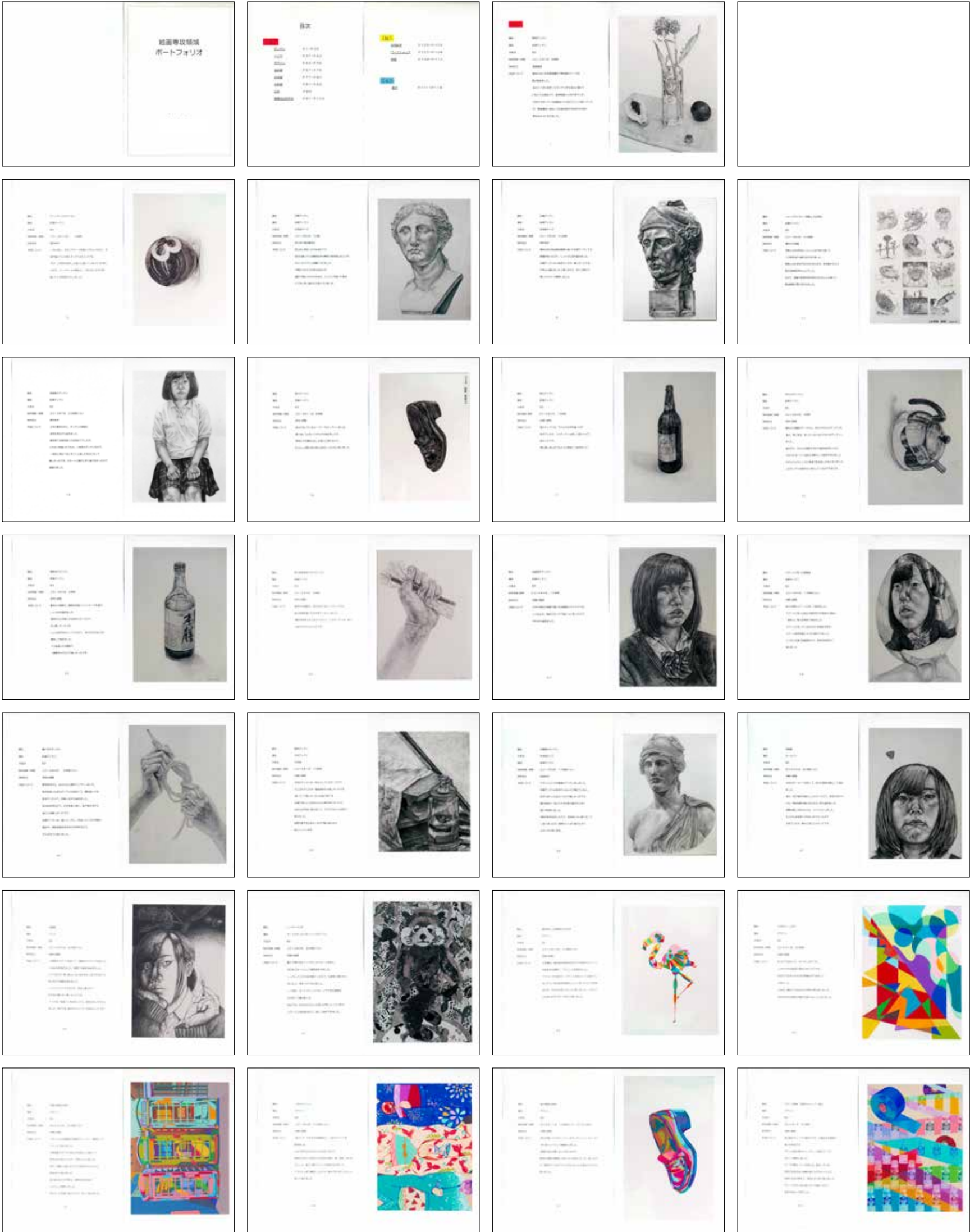
Ema Maeda
前田エマ [モデル] 2015年卒業



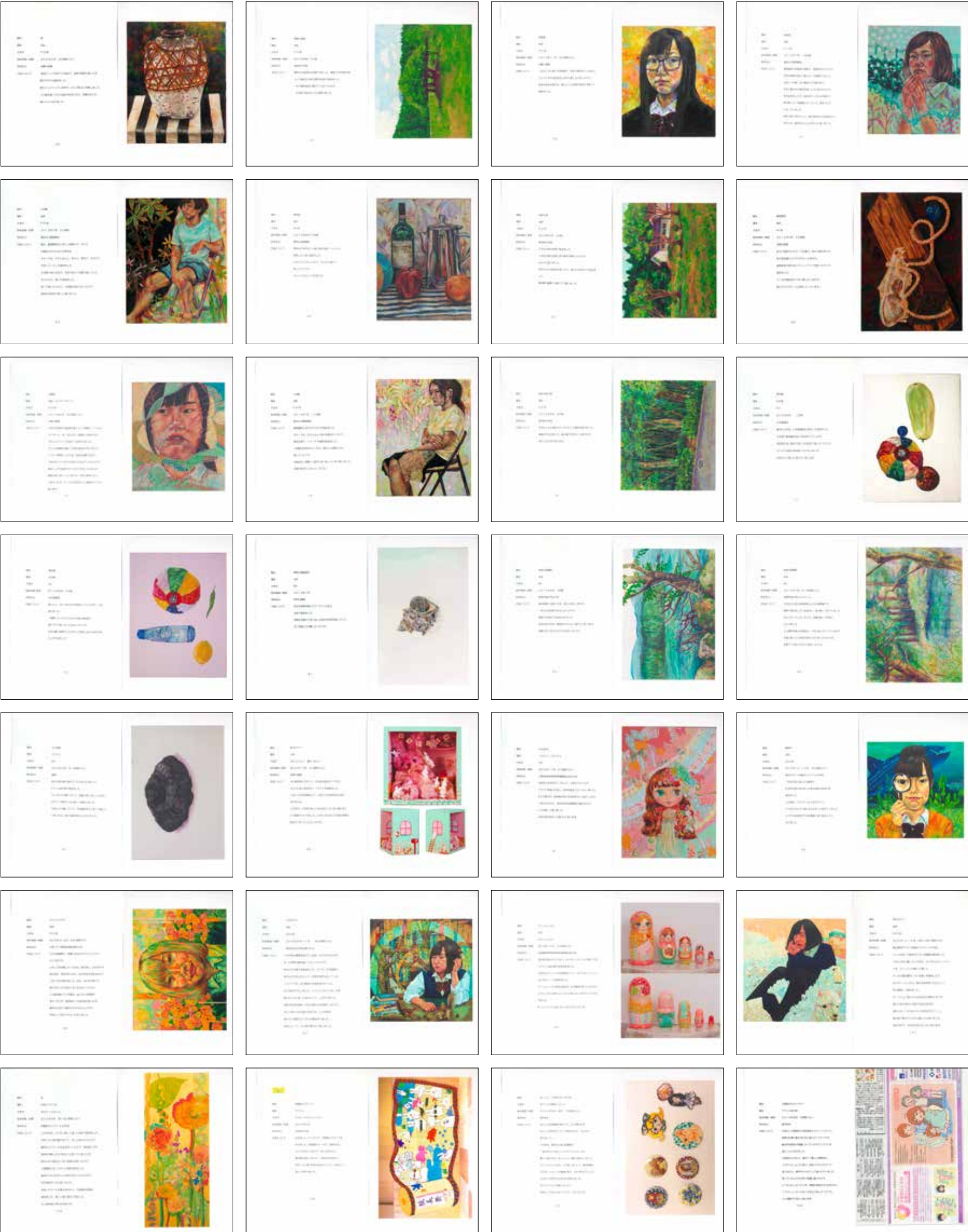
雑誌やウェブサイトでアートやファッション、イラストやエッセイの連載を持っています。今もモデルの仕事と両立しながら制作活動も続けています。歴史あるVOCA展への参加は身に余る出来事でした。描いたり撮るだけでなく、朗読と音楽のパフォーマンスなどもしています。学生時代は専攻以外の授業や大学院の授業にも先生にお願いして潜らせてもらったり、ウィーンに交換留学をしたりと、貪欲な日々を送りました。

[参考資料]

● 2015年度入学:Sさんのポートフォリオ *このポートフォリオは内容を一部抜粋したものです



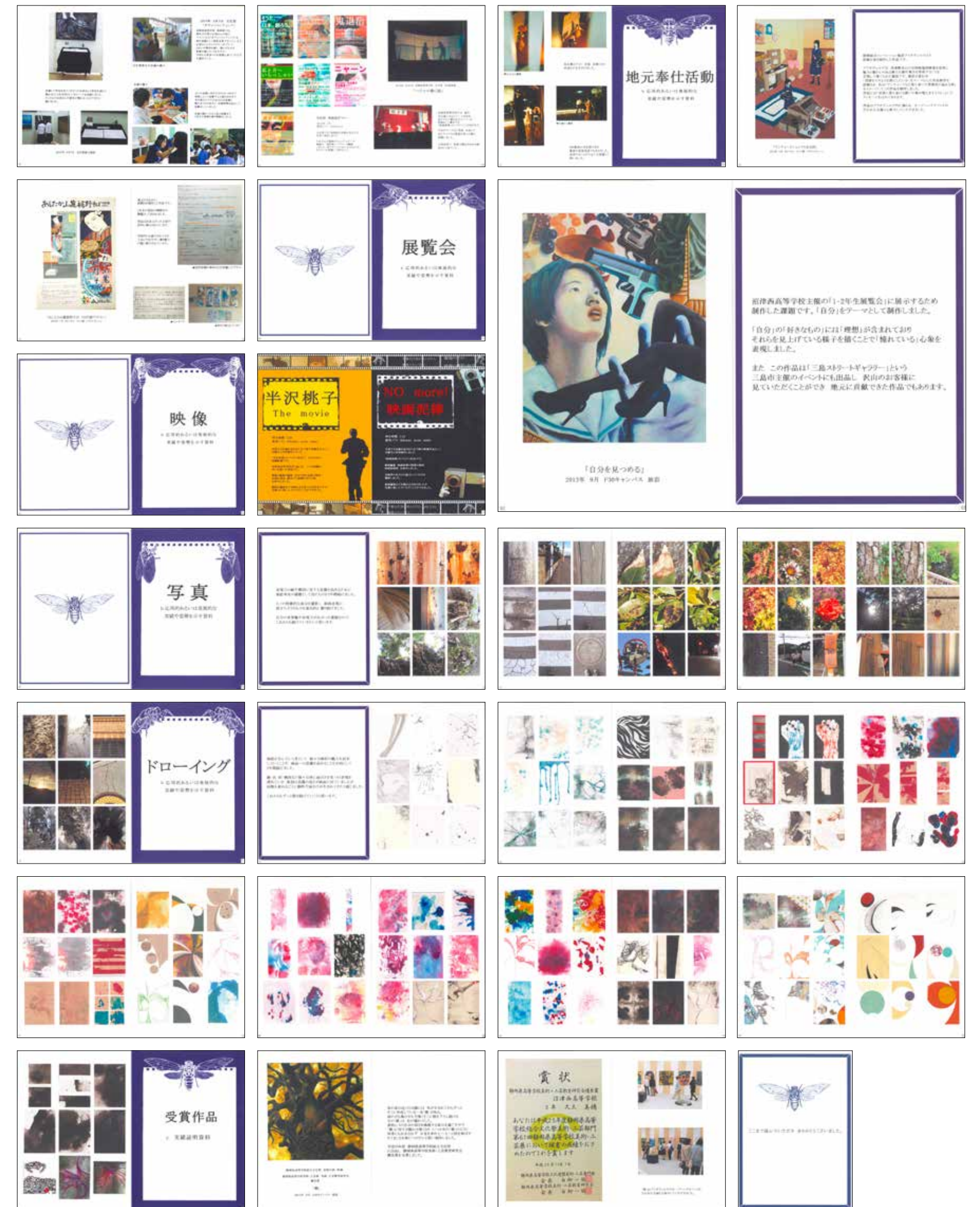
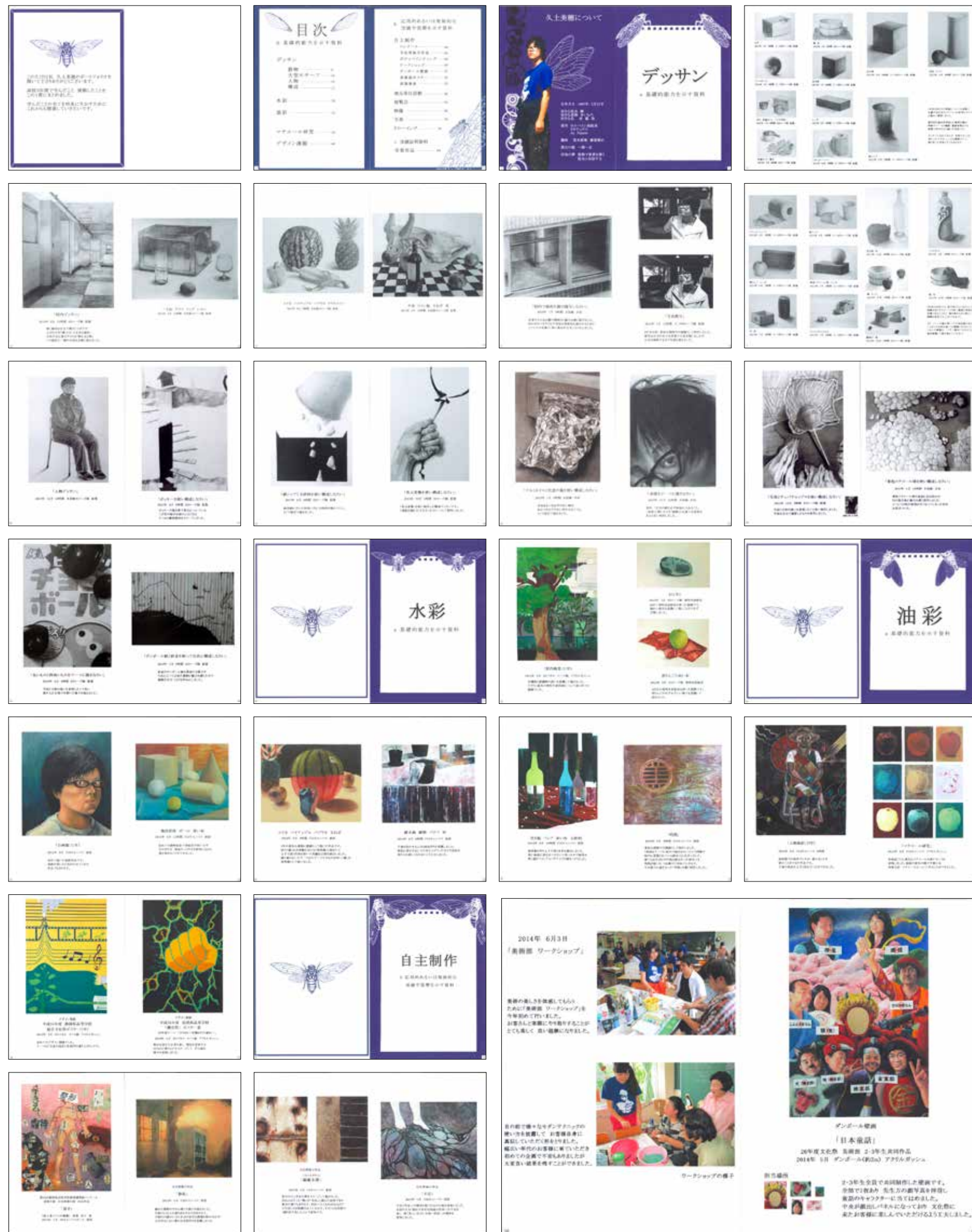
[参考資料]



[參考資料]

[參考資料]

● 2015年入学:Kさんのポートフォリオ ※このポートフォリオは内容を一部抜粋したものです





デザイン・美術に関する基礎的能力を示す
以下のような資料

- ・デッサン、クロッキー、平面構成
- ・立体構成、ドローイング、油彩画、水彩画、版画、彫刻、塑造、工芸、写真、映像、CG、アニメーションなど

区分(A) 基礎的能力を示す資料

以下の(A)(B)(C)の各区分の資料を必要に応じて組み合わせながら、自由な形式でA4判ファイル1冊にまとめてください。
資料全体で30～60ページ程度にまとめてください。
ポートフォリオの具体的な作成方法については右ページの「作成上の注意事項」を参照してください。

「ポートフォリオ作成要領」



志望する専攻領域と関連した能力や
実績を示す以下のような資料

- ・自主的にテーマや課題を掲げ制作した作品など、自分の能力をアピールするための作品
- ・継続して取り組んでいる創作活動や制作物
- ・創作活動や制作物のコンセプトやプロセスをまとめた資料
- (エスキース、絵コンテ、脚本、調査研究資料なども含む)

区分(B) 専門的能力を示す資料



(A) 基礎的能力を示す資料、(B) 専門的能力を示す資料以外で、
自分の能力や活動の実績をアピールする資料

- ・学校内や地域社会での共同制作、文化祭や学校行事などでの創作活動の資料
- ・部活動やその他の活動についての資料
- ・資格・検定などの認定証、展覧会・コンクール、大会などの賞状や参加状況がわかるパンフレットなどの資料

区分(C) その他の活動に関する 実績を示す資料

[総合型選抜(自己アピール)入学試験]

* 詳細については、募集要項及び本学ホームページもあわせてご覧ください。

総合型選抜(自己アピール)入学試験は
一般選抜入学試験では測ることのできない、
さまざまな能力を評価するための入学試験です。
この入試では、
志願者本人の提出資料やプレゼンテーションによる
自己アピールに基づき選考を行います。

「求める学生像について」

- 絵を描くことが好きな人で、特に絵画表現について強い学習意欲のあり自分の表現を追求したい人。
- 卒業後は美術家、美術関係の仕事に就きたい人。
- 現代美術などアートの新しい可能性に積極的に挑戦してゆこうとする意欲と行動力のある人。

出願書類に基づく書類審査により
プレゼンテーション選考対象者を
決定し、総合的に判定し
合格者を決定します。

書類審査



プレゼンテーション
選考

- ・2つの専攻領域まで併願ができます。
- ・「ポートフォリオ(作品・活動の資料ファイル)」の作成要領が変更となります。

ポートフォリオ作成上の注意事項

- 表紙に氏名・出願する専攻領域名を記してください。
 - はじめに目次とプロフィール(形式自由)を記してください。
 - 各ページに番号をつけて目次と対応させてください。
 - (A)(B)(C)の区分を2つ以上組み合わせるまとめてください。
 - (A)(B)(C)の区分ごとに区切りを付けるなど、各資料がどの区分に該当するか見分けがつきやすいように工夫してください。
 - (A)または(B)のどちらの区分に分類するか判断としない作品・資料は、本人の判断でどちらに分類しても構いません。
 - 共同制作・共同活動などの資料は出願者本人が担当した内容がわかるようにしてください。
 - 作品資料や活動資料は、作品名・サイズ・素材・制作時期や活動期間(年/月)などを記してください。
 - 資料として収録する作品や活動が、自主的なものが、学校などの課題によるものかを区別して明示してください。
 - 課題の場合には、どの学校や組織での課題であったのか、またその課題内容はどういうものであったかを記してください。
 - 必要に応じて資料にコメント(制作意図・制作または活動したときに考えたことなどを記してください)。
 - 資格や検定の認定証および賞状などの実績証明資料は、1ページごとに1資料を貼ってください。
 - 実績証明資料の出版、刊行年、および出願者本人が関わった内容などが分かるように工夫をしてください。
- ポートフォリオに映像作品やCG作品などのデジタルデータを入れた場合**
- 映像作品やCG作品などのデジタルデータを資料として示す場合は、以下の条件にしたがってください。
 - 映像作品は3分以内とします。ただし、映画・映像専攻領域を志望する場合は10分程度の作品も可とします。
 - 作品を収録したDVDをポートフォリオに入れてください。
 - 静止画像の場合は作品全体の概要が3分以内で把握できるものとします。
 - DVDまたはCDのいずれかに収録してポートフォリオに入れてください。
 - ポートフォリオにDVD・CDを入れる場合は、動作する環境と操作手順を明記した文章(ファイル形式・使用するアプリケーション等)を記してください。



表紙例

① ポイント

1. 作品名・素材・サイズ・制作年月は重要です。
2. 制作時に考えたことなど「コメント」があると作者の意図が分かりやすくなります。

[参考作品]



【教員講評】
水の入ったガラスの反射や透過、映り込みによって作られた変容する空間を丁寧に観察し描かれた作品である。基礎的な描写力や構成力に加え、セットされたモチーフが持つ空気感もしっかりと受け取り、画面に表現している。絵の具の物質感に加え、画面全体の色合などバランスの取れた作品である。

【教員講評】
よく考えられた構図と、画材の特質を巧みに用いた絵肌から、絵画を学ぶ上での卓越した資質を持つ人物であることがわかる。デッサンでは、空間に在るモチーフを細やかな観察眼で読み解きながら、平面上の明暗の変化によるリズム良い画面へと置き換えている。油彩画でも色彩の変化を追いながら真摯に形態を描いているが、主題となる人物が画面から観る側へ迫り過ぎた感がある。背景との調和や関係もさらに質をつけるというだろう。大学では、絵画の可能性を大いに広げる冒険的試みへと挑戦して欲しいと感じる優れた解答である。



【教員講評】
デッサンはモチーフ全体を入れた構図で、オールドボックスだが空間感も良く出ていて基礎力がある。油彩画は逆に固有色を排し、台と人物が体化するような大胆な発想で、シニールリズムを意識していると感じるが、画面を大きく2色に分けた構図や全体と細部の描き込みなど、作画へのこだわりもうかがえ評価できる。

[一般選抜入学試験]

* 詳細については、募集要項及び本学ホームページもあわせてご覧ください。

一般選抜入学試験では、「一般方式」と「共通テストC方式」の2通りの試験方法があります。一般方式と、共通テストC方式を併願することもできます。

「求める学生像について」

● 一般方式（実技のみ）では、高い表現技術力、観察力、描写力、創造力、学習意欲を持ち、実力と経験のある人。
● 共通テストC方式では、柔軟で幅広い視点からの判断力と総合力を持ち、多様な能力を有する人。

共通テストC方式

大学入学共通テスト(2教科2科目:200点)と実技試験(2科目:300点)の合計点(500点)で可否を判定します。

大学入学共通テスト

実技試験
(油彩画)

実技試験
(デッサン)

一般方式

2つの実技試験を課し、その総合点(500点)で可否判定します。

実技試験
(デッサン)

実技試験
(油彩画)

2020年度一般入試問題 作問意図と評価のポイント

デッサン(ドローイング)

モチーフを観察し描きなさい。

【条件】

1 木炭紙または木炭紙大の画用紙どちらかを選択すること。
2 解答用紙は縦・横どちらで使用してもよい。

【禁止事項】

1 持参した資料や図版を見て描くことを禁止する。
2 火気を使用することを禁止する。

【持ち物】

鉛筆、木炭、デッサン用具一式、木炭デッサン下敷用紙(白紙、フイクサチーフ(定着液) ※水や火気の使用は認めません。

【作問意図】

基礎的な造形能力である形態に対する観察力、描写力、構成力および豊かな発想力と積極的な表現能力を問います。

【評価のポイント】

基礎的な観察力、描写力、構成力を重視し、豊かな表現になっているか。モチーフの特性に対して豊かな発想力で、意欲的に取り組んでいるか。描画材(鉛筆、木炭、支持体(紙)の特質を良く活かしているか。【条件】を満たしているか。

【禁止事項】に記載されている行為をしていないか。



2020年度のデッサン(ドローイング)課題

(油彩画)

モデルとモチーフを自由に描きなさい。

【条件】

キャンパスは縦・横どちらで使用してもよい。

【禁止事項】

1 持参した資料や図版を見て描くことを禁止する。
2 火気を使用することを禁止する。

【持ち物】

油彩用具一式(アクリル系可)、鉛筆およびプラスチック製消しゴム(氏名等記入用) ※火気の使用は認めません。

【作問意図】

総合的な造形能力を問う出題です。モデルとモチーフを各自どのように解釈して画面を作るかによって、色彩・形態による表現力と構成力、描材に対する理解力、出題に対する自由な発想力、意欲的な制作能力を問います。

【評価のポイント】

総合的な観察力、描写力、発想力、構成力を評価し、豊かな表現になっているか。意欲的に制作へ取り組んでいるか。絵の具と素材の特質を良く活かしているか。【条件】を満たしているか。【禁止事項】に記載された行為をしていないか。



2020年度の油彩画課題

絵画専攻領域

一般入試

特別入試

参考資料

